

研修冊子

令和7年度研究大会 各務原市 PTA 連合会

実践発表 & 勉強会

日時・開催方法

★実践発表配信

令和8年1月24日(土)～3月31日(火)

★情報モラル勉強会

令和8年1月31日(土) 13:30

★研修冊子ダウンロード

令和8年1月24日(土)～3月31日(火)

★報告冊子ダウンロード

令和8年2月27日(金)～3月31日(火)

＜研修冊子の内容＞

1. 市P連会長あいさつ

2. 実践発表

①中央小学校PTA

「今年度の新たな取組について」

②緑陽中学校PTA

「PTA ふれあいクリーン活動」

3. 情報モラル勉強会概要

親子で学ぶ体験型情報モラルゲーム

「レイの失踪」



各務原市 PTA 連合会

ごあいさつ

日頃より、各務原市 PTA 連合会の活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

まずは、本大会に向けて実践発表をお引き受けくださいました、中央小学校並びに緑陽中学校の単位 PTA 会長をはじめ、本部役員の皆様、そしてご協力いただきました保護者の皆様に、心より御礼申し上げます。

実践発表は、他校の PTA 活動を知る貴重な機会です。それぞれの取り組みから、今後の PTA 活動のヒントを見つけていただき、子どもたちのより良い成長と教育環境の充実につなげていただければ幸いです。

さて、長年にわたり続けてまいりました実践発表も、本年度をもちまして一区切りとなります。時代の変化が加速する今、これまでのやり方をそのまま踏襲するのではなく、状況に応じて柔軟に変わっていくことが求められていると、強く感じております。

当たり前とされていた考えに疑問を持ち、自ら考え、行動する…。その姿勢は、時代を超えて、今を生きる私たちにも大切な示唆を与えてくれているのではないのでしょうか。私たちの PTA 活動においても、「これまでそうしてきたから」ではなく、今の子どもたちにとって何が最善なのか、今の保護者にとって無理のない形とは何かを考えながら、PTA の在り方を見つめ直していくことが大切だと感じております。

1 月 31 日に開催される情報モラル勉強会「レイの失踪」では、体験型のプログラムを通して、闇バイトの危険性について学んでいただきます。親子での参加も可能ですし、スマートフォンをお持ちであれば、中学生のみでの参加も可能です。

スマートフォンの利用の低年齢化は、もはや避けられない時代となりました。だからこそ、「使わせない」のではなく、「正しく、賢く使う力」を身につけることが重要だと考えています。そして私たち大人自身もまた、学び続ける姿勢が求められているのではないのでしょうか。

また、本日より実践発表に関するアンケートを実施しております。今後の企画や運営の参考とさせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

本研究大会が、皆様にとって有意義な学びと気づきの場となり、今後の PTA 活動へとつながることを心より願っております。

結びに、本大会の成功を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

令和7年度 中央小学校PTA 実践発表資料 「今年度の新たな取り組みについて」

1. はじめに



中央小学校は、昭和53年に、蘇原第一小学校、蘇原第二小学校、鵜沼第二小学校、各務小学校の一部の地域が一つになり創立し、まもなく50周年を迎える各務原市としては比較的新しい小学校になる。



中央小学校では、教育目標「進んでやりぬく中央の子」を目指して、自主性とやり切る力を身に付けられるよう授業や活動に取り組んでおり、創立6年目の昭和59年から始まった「あさがお運動(※)」は、40年以上たった今でも続く伝統的な活動となっている。

※あさがお運動とは

(あ…明るいあいさつ)

(さ…さっと清掃)

(が…がんばる勉強)

(お…おもいきり運動)の頭文字をとってあさがお運動と名付け、取り組んでいる。

2. 活動内容

今年度PTAスローガンを「一歩ずつ 一歩で十分 笑顔で前進 親も子も！全員参加で 中央共育！」とし、慌てずゆっくり、親も子も共に成長していこう！という思いで、このスローガンを掲げ、従来通りではなく今まで以上に、子供達、保護者、先生方、学校みんなに寄り添った新しいPTA活動を行ってきた。

(1) 新たな取り組み その1

～何も居ないビオトープを魚いっぱいの明るいビオトープに！～

全校児童が毎日目にするビオトープ。しかし、40年以上という歳月が経ち、今では何も居ない状態が何年間も……。しかし、せっかく過去のPTAの方々が作って下さった素晴らしいものを、このような状態にしておくのはもったいないということで、ビオトープの大掃除がスタート！

まずは子供達も一緒に、ビオトープの水全部抜く大作戦！出てきた生き物は一時的に水槽へ避難。石や枝などもたくさん出てきた。その後はひたすらゴシゴシコケ落とし！



水を抜き、中を掃除した後は、モルタル補修に塗装まで、7か月間かけて行った。新しいビオトープの中にはPTA会長が育てたメダカを子供達が金魚すくいのようにポイで掬い、その後ビオトープへ。誰も見向きもしなくなっていたビオトープも、今では子供達が集まる憩いの場所へと変わった。

(2) 新たな取り組み その2

～プール開きに向けた保護者参加のプール清掃～

今までは5、6年生と数人の先生方でプール清掃を行っていたが、授業中ということもあり、先生方の参加人数にも限界があるため、大人の人数が足りず毎年苦労しているとの事だった。そこで、PTAで保護者に参加者を募り、子供達と一緒にプール清掃を行う事にした。プール清掃は滑る足元での作業、水が入った重たいバケツ、危険がたくさんある作業である。大人でしかできない作業や、子供達の安全監視を保護者も行うことで、作業効率も上がり、先生方や子供達も安心して作業ができるようになった。この活動は好評だったこともあり、毎年恒例にしたいと考えている。



(3) 新たな取り組み その3

～広報誌の印刷委託の取りやめ～

今までは広報誌を印刷会社をお願いしていたが、貴重な活動費をなんとか節約できないだろうか、しかし、発行回数を減らしたり、見にくいものは作らない…。広報誌をデジタルにする案も出たが、いろいろと難しそう…。

そこで考えたのが、印刷会社に頼むのではなく、全部自分たちで作る事にした。写真の配置から、デ

ザイン文章を考え、印刷は、学校のプリンターをお借りし、みんなで集まり、折り込み作業をした。その為、発行回数も減らすことなく、皆様に広報誌をお届けでき、当初の広報誌予算金額より約25万円も浮かす事ができ、大幅な節約に成功した。そのおかげで、定期発行に加え、PTAの役員に関する疑問解消や、意外と知られていない、忙しい校長先生の一日をすごろく形式で紹介する号外も発行する事が出来た。



(4) 新たな取り組み その4

～創立50周年に向けて～

創立50周年に向けての取り組みは、始まったばかりだが、過去のPTA役員や、中央小学校卒業生等にも声をかけ、児童、先生方、卒業生、PTAを含め、中央小学校に関わる全ての人達で、創立50周年を迎えたいと思ってる。

3. まとめ

～新たな取り組みの必要性

今の時代だからこそ！～

少子化が進み、児童も年々少なくなり、共働きを始め様々な家庭事情がある中、PTAに対する考え方も様々である。しかし、子供に対する思いはいつの時代も変わらないはず。その為、児童、先生方、保護者に寄り添う、時代に合った新たな取り組みがこれからも必要だと、我々中央小学校PTA一同は考えている。

令和7年度 緑陽中学校 PTA 実践発表資料 「PTA ふれあいクリーン活動」

1. はじめに

本校、緑陽中学校は周囲を雑木林に囲まれた自然豊かな環境にある。校区は、鶴沼第三小学校区と緑苑小学校区の二つの地域から成り立っており、生徒が集まっている。生徒が活動するグラウンドは、校舎南側と北側の2面確保されている。一方で、この立地特性ゆえに、特にグラウンド周辺の雑草の繁茂が著しく、生徒の活動環境や景観の維持が課題であった。



【写真】緑に包まれた校舎北側グラウンドでの5月体育祭

PTAでは、生徒・保護者・教職員が一体となり、学校の環境美化に取り組む活動として「クリーン活動」を長年にわたり実施している。本活動は、単なる除草作業に留まらず、地域のボランティア団体との協働を通じて、地域連携を深める貴重な機会ともなっている。本稿では、今年度の「クリーン活動」の実践内容と、活動を支える広報活動の改善について報告する。

2. 活動計画（活動内容）

「クリーン活動」は、生徒、PTA会員（保護者）、教職員が共同で行う除草作業を主とする。本校のグラウンドはフェンスで囲まれているが、特に雑木林に面したフェンス際は、雑草の生育が著しく、人の手だけでは作業が困難な箇所である。この課題に対し、本校区の緑苑小学校区の「環境ボランティア」、鶴沼第三小学校区の「みどりのまちづくり」という、二つの地域のボラン

ティア団体からの協力を得ている。両団体は、普段から地域の空き地や公共場所の除草作業を担当する団体であり、本校の活動においても、草刈り機（刈払機）を持参し、フェンス際の難所を中心に作業を担当してくれる。一方、生徒、保護者、教職員は、グラウンド中心部や、比較的安全に作業できるエリアの除草を、鎌などを用いて手作業で行う。このように、参加者の体力や技術に応じた役割分担と、地域ボランティアの専門的な支援によって、効率的かつ安全な活動が計画されている。

3. 実践事例

(1) 今年度の実施概要

今年度の活動は、夏休み明けの9月28日（日）に実施した。例年、活動時期の決定は、熱中症対策と除草の最適なタイミングを考慮する必要があるが難渋する。今年度は、特に熱中症対策を重視し、作業時間を約1時間程度に設定して実施した。夏休み前に参加案内を配布した結果、参加者は、生徒・保護者・教職員合わせて83名となり、案内から実施までの期間が空いたためか、例年に比べやや少数での実施となった。当日は、「みどりのまちづくり」および「環境ボランティア」の両団体から32名の協力を得た。草刈り機による広範囲の除草は、人力のみでは到底不可能な作業量であり、学校環境の維持に不可欠な支援であると改めて実感した。幸い、活動時間を考慮したことや、参加者各自の体調管理への意識もあり、当日は熱中症になる者やケガをする者もなく、活動を無事に終了することができた。



【写真】刈り取った草をブルーシートで運搬する生徒たち



【写真】校舎南側グラントで生徒・保護者・教職員による除草作業

(2) 連携における課題

「みどりのまちづくり」のメンバーからは、会員の高齢化が進み、活動に参加できる人員が年々減少しつつあるという、深刻な課題を伺っている。本校の活動が、こうした善意ある地域の力に支えられていることを認識するとともに、今後の持続可能な連携のあり方を模索する必要がある。



【写真】地域ボランティアによる草刈り機(刈払機)での作業

(3) 広報活動のデジタル化と即時性

今年度のPTA活動では、広報のあり方を大きく見直した。従来、紙媒体で発行していたPTA広報誌を廃止し、メール配信システム(スマート連絡帳)によるデジタル配信に全面的に移行した。この移行は、「クリーン活動」の報告において大きな効果を発揮した。活動が終了した直後、広報委員が迅速に記事を作成し、活動の様子や成果をまとめた「PTA広報」をクリーン活動実施10日後に配信することができた。広報誌には、作業の様子と共に、参加した生徒や保護者の声も掲載した。例えば、「つい夢中になってしまった」「友達や先生と作業できたのも面白かった」「達成感があってよかった」といった前向きな

意見が寄せられた。活動の熱量が冷めやらぬうちに、参加できなかった会員にも活動の成果と意義を共有できたことは、PTA活動への関心や次年度の参加意欲を高める上で、非常に有効なアプローチであったと考える。



【写真】活動直後にメール配信されたデジタルPTA広報

4. まとめ(総括)

今年度の「クリーン活動」は、参加人数こそ課題を残したものの、地域ボランティアとの貴重な協働の場として、学校の環境美化に大きく貢献した。同時に、浮き彫りになった二つの課題がある。一つは、ボランティア団体の高齢化という、地域連携の持続可能性の問題である。もう一つは、熱中症対策と参加率向上を両立する、活動の最適な時期と効果的な周知方法の検討である。一方で、広報活動のデジタル化は、活動の「見える化」という点で大きな成果を上げた。活動直後のフィードバックは、PTA活動の価値を再認識させる好循環を生み出す。今後は、本活動の意義を次世代に繋げていくためにも、地域との新たな関わり方を模索しつつ、デジタルツールを活用した効果的な情報発信を継続し、より多くの会員が参加しやすいPTA活動を目指していく。

ゲームで学ぶ、闇バイト対策

「レイの失踪」

闇バイトに勧誘された経験がある若者は、約**4**割

忠実に再現されたゲームの世界で、**闇バイト**の手口を疑似体験

高校生動画配信者であるレイからの連絡が途絶え、仲間がその消息を追うストーリー仕立ての謎解きゲームです。プレイヤーは、架空のSNSの投稿やメッセージのやりとり、求人サイトなどを探ることにより、レイが軽い気持ちで闇バイトの世界に足を踏み入れてしまった経緯を追体験していきます。

このプログラムは、現役慶応大学生によるスタートアップ企業「クラスルームアドベンチャー」が作成しました。もうすでに様々な地区の中学校や高校で、このプログラムを使って学習しており好評を博しています。中には、地域の学校全体で導入する自治体も出てきているとのことですが、岐阜県下では今回が初めての勉強会となります。



日時 令和8年1月31日（土）13：30開始

場所 各務原市産業文化センター8階第2特別会議室

対象 小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒及び保護者

なお、参加には事前申し込みが必要です。